

昭和42年度 和歌山県文化賞

はし づめ よし お
橋 爪 義 雄

住 所：和歌山県海南市

出 身 地：和歌山県海南市

生 年：明治35年

■職業

漆器製造業 漆芸家

◎業績及び経歴

大正6年黒江町立漆器学校卒業後家業を継いで漆芸の道に志す。その後ひたすらこの道に従事すること50年。この間苦学力行して研さんを重ね、技術の向上と業界の発展に貢献した。

氏は漆器技法中忍耐と努力を要する「きんま」手法を達成し、工芸部門に新しい道を開き、昭和22年から同38年までの間11回日展に入選し、工芸部門で抜群の実績を残している。

昭和31年紀州漆器漆工会、ついで同33年紀州漆器文化協会の設立につとめ、毎年会員の実作展示会又は日本漆器展、中小企業輸出振興会その他各展覧会には積極的に出品し、産業の振興と意匠および技術の向上に寄与し、更に業界青年層の育成に力を入れ、現在日展入選者7名を数えるにいたったのは氏の熱意のたまものであり、業界の指導的な役割を果たしている。

また、氏は昭和28年以来県展、和歌山市展、海南市考案権等の各審査員を担当し、産業文化の振興に貢献してきた。昭和33年海南市産業功労者として市長表彰を受けたのもこのような功績がたたえられてのことである。